

2023年12月22日

### 〈新春特別調査〉 ～静岡県内の主要企業経営者が見通す「2024年」～ 4割弱の経営者が景気改善を見込む

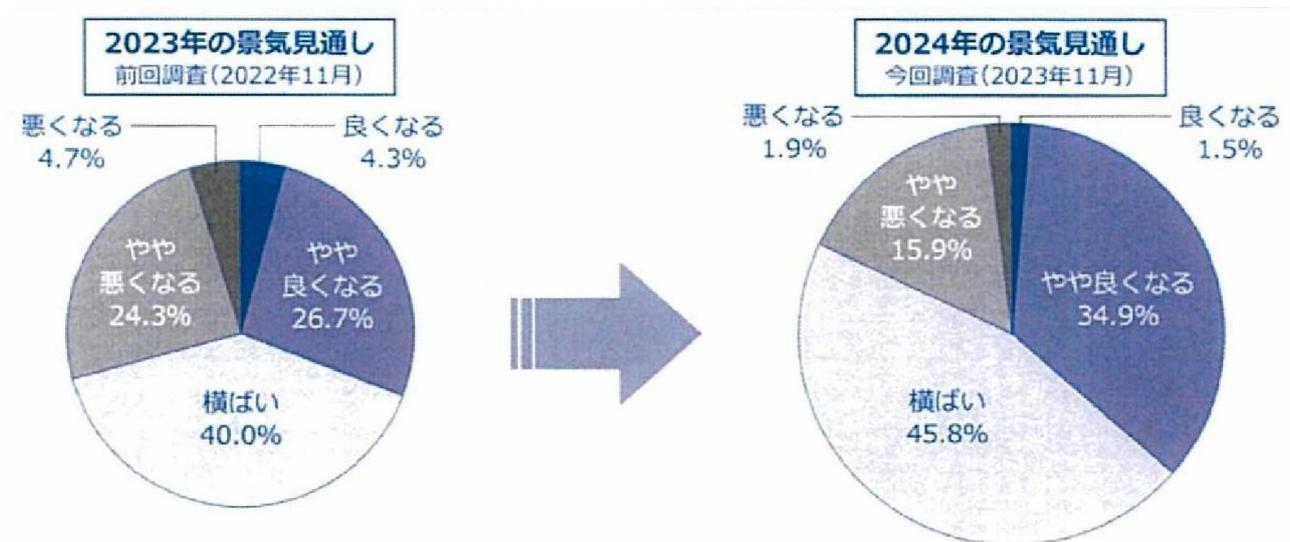
静岡経済研究所（理事長 馬瀬和人）では、2024年が静岡県の企業経営者にとってどのような1年になるかをアンケート調査しましたので、その結果をお伝えします。

#### アンケート調査の概要

調査対象：静岡県内の主要企業経営者509名  
 調査方法：郵送・電子メールによる送付・回収  
 回答数：268名（回答率52.7%）  
 調査時期：2023年11月中旬  
 業種：製造業50.0%、非製造業50.0%  
 所在地：東部 26.9%、中部 36.9%、西部 36.2%  
 従業員数：30人以下 19.0%、31～50名 13.4%、51～100名 19.8%、  
 101～300名 26.5%、301名以上 20.5%、不明 0.7%

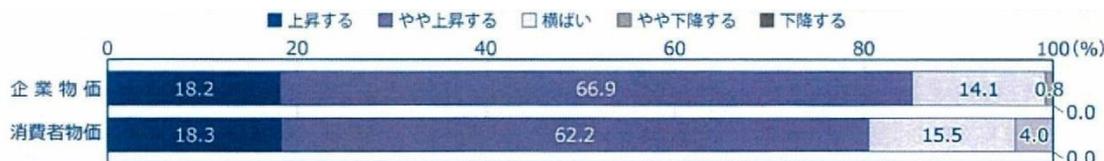
#### 【2024年の景気見通し】 県内経営者の4割弱が景気改善を見込む

2024年の景気見通しは、「横ばい」が45.8%で半数近くを占める中、「良くなる」（1.5%）、「やや良くなる」（34.9%）と、4割弱が改善を見込んでいる。前年に比べると、「やや悪くなる」が減少する一方、「やや良くなる」が増加しており、コロナ禍で厳しかった経済環境からの着実な回復を見通す結果となった。



#### 【日本の経済指標】 GDPや株価、為替は前年並みだが、物価は8割強が上昇を見込む

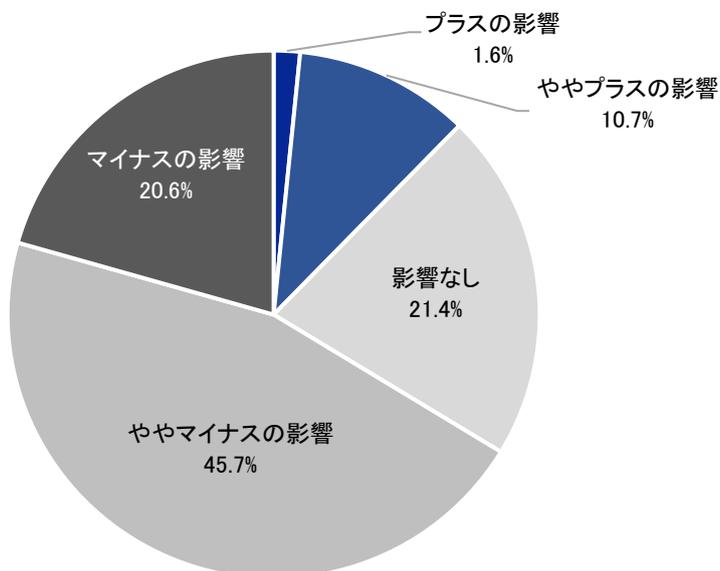
日本の経済指標について、GDP、株価、対ドル円相場の予想は、いずれも2023年と同水準を予想しているが、物価に関しては、企業物価、消費者物価ともに、8割強の経営者が23年よりも上昇すると予想しており、コスト増加への不安は拭い切れない。



**【円安基調が継続した時の影響】 6割超の経営者がマイナスの影響を予想**

「円安基調が継続する」ことについては、66.3%の経営者が「(やや) マイナスの影響」があるとした。なかでも、生活関連型製造業や基礎素材型製造業、建設業は、7割を超える経営者がマイナスの影響を予想。

一方で、「(やや) プラスの影響」があるとの回答は12.3%と、輸出で為替の恩恵を受ける電気機械や輸送機械でプラスの影響を選択する回答がやや多かった。



**【2024年の対ドル円相場の予想レンジ】 県内経営者の予想は140～150円/ドルに集中**

対ドル円相場の24年の予想レンジは、1ドル140円台の円安基調が続く中、110～180円/ドルと70円の幅があり、経営者の見方がわかれた。回答数では140～150円/ドルに集中し、平均値は高値が134円/ドル、安値が154円/ドルと、県内経営者は23年と同じレベルを予想している。



詳細な調査結果は、調査月報 2024年1月号に掲載しています (12月27日発刊予定)。

※お問い合わせ先：調査部 富田 電話：054-250-8750